

（報告）

ア 令和3年度全国学力・学習状況調査について

※指導課長から資料に基づき説明

（神谷委員）保護者リーフレットとはどのようなものか。

（指導課長）調査内容の中に生活環境や学習環境に関する質問紙調査があり、生活習慣と学力に関係が認められるようであれば、家庭でも気を付けていただきたい点として伝えていく。昨年度は、基本的な学力と生活習慣の関係を表したリーフレットを作成した。A3版の両面刷り1枚程度のものである。

イ 文化財課の事業について

※文化財課長から資料に基づき説明

（田中委員）都内の博物館、美術館等、なかなか行くことができなくても、ギャラリートークをインターネット配信している所が多くあり、活用している。浜松市も学芸員のギャラリートーク等をオンライン配信してはどうか。

（文化財課長）はままつ文化財速報展では、ギャラリートークを予定しており、録画したものをYouTubeにて配信する予定である。また、展覧会の解説動画や市内の文化財を紹介する動画も順次増やしており、昨年度は12タイトルを配信した。

ウ 美術館の事業について

※美術館長から資料に基づき説明

（黒柳委員）現在開催中の遠州の民藝展で手紙の展示を拝見したが、達筆すぎて読むことができず眺めるだけになってしまった。要約等が添えられていると良いと思った。また、藤井フミヤ展は個人的にとっても楽しみにしているが、混雑状況が気になるところである。ホームページで混雑状況をお知らせしているのは承知しているが、安全に開催してもらえればと思う。

（美術館長）柳宗悦と交流のあった方との手紙は、当初展示予定ではなかったが、貴重なものだったため、最終的に展示することになった。展示方法については反省点があり、今後は計画的に展示内容を決定したいと思う。

（安田委員）写真撮影を許可する美術館が増えており、来訪者がSNSで発信して集客につ

ながっているということを耳にするが、今回の遠州の民藝展は撮影不可だった。前回のみほとけのキセキ展は撮影可だった気がするが、何か理由があるのか。

(美術館長) 今回の展示品はほとんどが遺族からの提供であり、展示の交渉をする中で撮影を許可してもらえないものが多かったためである。中には撮影を許可してもらえるものもあったが、館の運営上、展示品によって撮影可・不可を分けることが難しく、すべて撮影不可とした。みほとけのキセキ展は、どの住職も諸手を挙げて賛成してくれたため、撮影可となった。所有者の意向によるところが大きい。

(安田委員) 所有者に撮影を許可してもらえるような交渉ができると良いなと思う。

(神谷委員) 海外で美術館等に行くと、絵の前でデッサンをしている子供達等を見かける。日本の子供達も美術館や博物館をもっと活用したら良いのと思う。中部学園は美術館の隣にあるが、学校で行くことはほとんどないと聞き、残念に思う。学校教育との結び付けについて考えを伺いたい。

(文化財課長) 学習指導要領にも郷土の歴史資料に触れることとあり、特定の学年が中心にはなるが、多くの児童が毎年博物館の見学を行っている。同時に学校移動博物館という事業も行っており、各学校にて校区にまつわる郷土資料や文化財等とともに地域の歴史を紹介する授業等を、博物館の指導主事を中心に行っている。

(美術館長) 美術館も学校単位、学年単位、学級単位等で来てもらうことを推奨しており、時間の制約がある中で可能な限り来てもらっている状況である。館内でのデッサンは不可とはしていないが、混雑状況によりお断りする場合もある。みほとけのキセキ展は、デッサンに来てもらうことを中学校の部活動を中心に積極的に呼び掛けようという話もあったが、来場者が思いのほか多く見合わせた。先程、ギャラリートークの話もあったが、アウトリーチとして学芸員が学校に出向いて話をすることは積極的に行っている。

(田中委員) 行かなくても繋がれる時代になったため、学校と美術館をオンラインでつないで、ギャラリートーク等で視点がユニークな専門家の話を子供達が聞ける機会をぜひ作っていただきたい。

(美術館長) 現在、北部中学校からの要望でリモート授業を予定している。今後徐々に増えていくと思う。